

地域に貢献する「プロ選手」

独立リーグは、わたしたちが普段「プロ野球」と呼んでいるNPB(日本プロ野球機構。以下、プロ野球)とは一線を画した「独立したプロリーグ」のこと。プロ野球を目指す選手育成、指導を主な目的としており、選手はチームとプロ契約してプレー



プロ野球を目指す選手たちの受け皿 全国に3つのリーグ

平成17年、国内初の独立リーグとなる「四国アイランドリーグ」が設立されました。同リーグは、四国各県を本拠地とする「愛媛マンダリンパイレーツ」「香川オリブガイナース」「高知ファイティングドッグス」「徳島インディゴソックス」の4チームで構成。元プロ野球西武ライオンズで活躍した石毛宏典さんが、近年、社会人野球チームが減少していく中で、プロ野球を目指す選手たちの行き場が少なくなっている状況を懸念し、彼らの受け皿として設立したものです。

平成19年、本県初の野球のプロチームとして「長崎セインツ」が設立され、昨年から福岡県を拠点とする「福岡レッドワープラーズ」と共に同リーグに参戦することで、同リーグは6チームとなり、名称も「四国・九州アイランドリーグ」(以下、ア

長崎セインツ ● 独立リーグ2年目の挑戦

白球に
夢をのせて!



松原祐樹内野手



吉川公史郎捕手



金崎恭兵内野手



林孝明内野手



佐世保出身
四選手に注目!

独立リーグは下部リーグから上位リーグへとチームが昇格するプロサッカーとは違い、チームが上位リーグ(プロ野球)に昇格することはない、選手がプロ野球に昇格することを目指しています。チームを応援するだけでなく、プロ野球を目指す選手たちに注目し、見守りながら声援を送る「育てる」という楽しみが独立リーグにはあります。これから独立リーグを見てみようという人は、地元出身選手や新しく入団した選手からお気に入りの選手を見つけて応援すると、観戦の楽しみも増えるのではないのでしょうか。

地元開幕戦は4月4日。
選手に注目して楽しもう!

独立リーグは下部リーグから上位リーグへとチームが昇格するプロサッカーとは違い、チームが上位リーグ(プロ野球)に昇格することはない、選手がプロ野球に昇格することを目指しています。チームを応援するだけでなく、プロ野球を目指す選手たちに注目し、見守りながら声援を送る「育てる」という楽しみが独立リーグにはあります。これから独立リーグを見てみようという人は、地元出身選手や新しく入団した選手からお気に入りの選手を見つけて応援すると、観戦の楽しみも増えるのではないのでしょうか。

独立リーグの試合方法はリーグごとに異なります。アイランドリーグでは、前期、後期の2シーズン制を採用し、1チーム前・後期各40試合(金・土・日曜、祝日を中心に実施)をホーム・アンド・アウェー方式(参考2)で戦います。前期と後期の優勝チームは、リーグチャンピオンシップ(5回戦制で3戦先勝方式)で、年間総合優勝を目指します。

待望の地元開幕戦は、福岡レッドワープラーズを佐世保野球場に迎え、4月4日(土)13時から行われます(本紙13ページ参照)。

地域イベントへの参加や福祉施設への慰問など、地域の皆さんと触れ合いながら夢を追いかけている長崎セインツの選手たち。みんなで応援して盛り上げていきましょう!

※参考1
四国・九州アイランドリーグの各チームは株式会社で組織されており、登録選手最大30人、最低給与月額10万円(3月~10月支給)のリーグ規定に基づき運営。長崎セインツの場合は、3月現在で登録選手22人、最低給与月額約13万円。

※参考2
対戦するチームがお互いの地元で試合を行う形式。